

(9) 中国



中国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

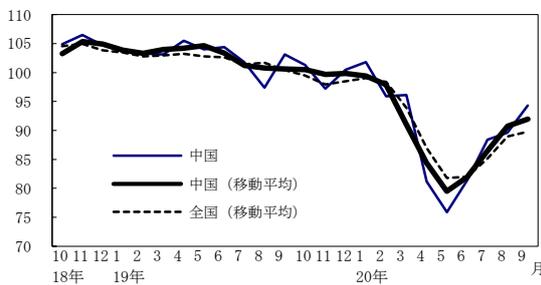
	前回（令和2年9月）	今回（令和2年12月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	→
鉱工業生産	一部に持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	このところ持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

7－9月期の鉱工業生産は、輸送機械は普通乗用車等が増加したこと、食料品・たばこが増加したこと等により、前期比14.2%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.2	▲58.0	105.4	46.5	3.8	8.8
汎用・生産用・業務用機械	13.3	1.0	▲5.4	5.3	▲17.0	15.2
化学	12.2	2.7	▲5.8	▲10.0	2.8	3.7
電子部品・デバイス	8.8	0.8	1.6	▲7.8	19.5	▲6.3
食料品・たばこ	6.8	▲6.7	19.4	18.3	▲7.7	6.8
鉱工業	100.0	▲18.8	14.2	8.6	1.4	5.2

(備考) 1. 2015年＝100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7－9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

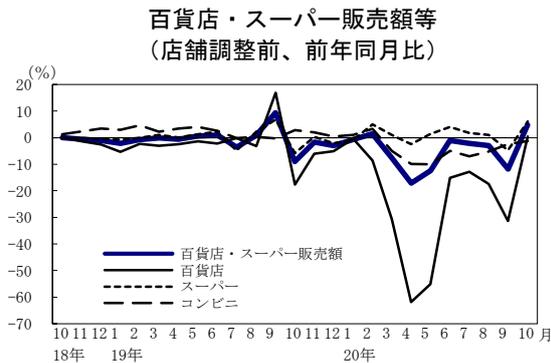
7-9月期は前期比3.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比10.1%減、7-9月期は同5.7%減となり、減少幅が縮小している。

百貨店は、4-6月期は同43.1%減、7-9月期は同20.8%減となった。

スーパーは、4-6月期は同1.1%増、7-9月期は同0.6%減となった。



	2020年7-9月	2020年7月	8月	9月	10月
RDEI (消費*1)	3.3	▲1.7	1.5	1.6	—
百貨店・スーパー(*2)	▲5.7	▲2.1	▲3.0	▲11.9	4.8
百貨店(*2)	▲20.8	▲12.9	▲17.4	▲31.4	0.4
スーパー(*2)	▲0.6	1.8	1.0	▲4.7	6.1
コンビニ(*2)	▲4.9	▲7.0	▲5.2	▲2.4	▲1.2
乗用車(*3)	▲12.9	▲10.0	▲13.5	▲14.9	31.8
(季節調整値) (*3)	29.9	17.3	1.0	▲0.1	8.7

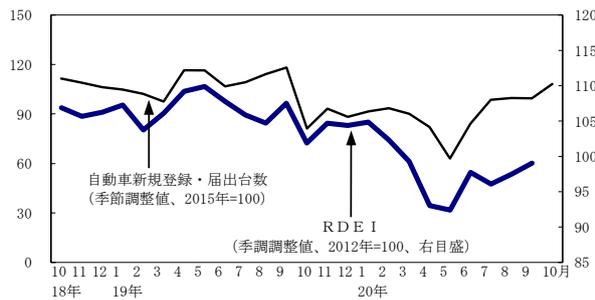
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2020年10月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比)(%)

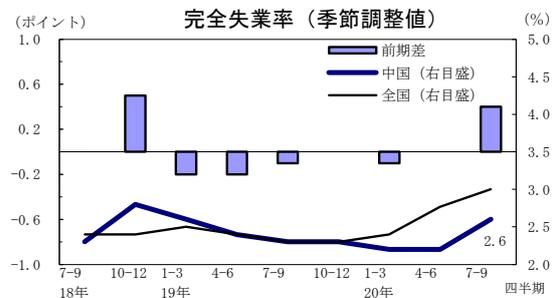
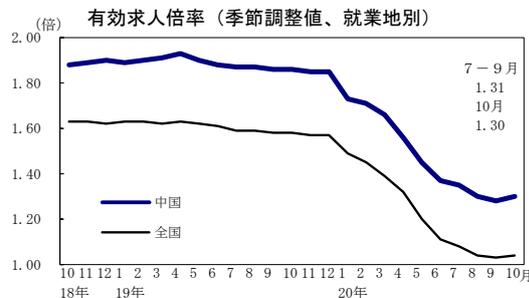
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和2年10月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・週末や夕方～深夜の来客数の伸び悩みが続いている。客のライフスタイルの変化が大きく、また、たばこの税の引上げもあって、来店動機が減ってきている（コンビニ）。	
		○	・Go To Travelキャンペーンの地域クーポン利用客が増加し、土産品などをたくさん買ってもらえるようになっている。1人当たりの販売量が増加しており、客単価が上昇している（その他専門店 [土産物]）。	
		▲	・非常に乗車が少なく、特に夜の乗車が少ない（タクシー運転手）。	
	企業 動向 関連	○	・Go Toキャンペーンにより、外食産業やホテルなど飲食関係が上向いていることから、製造数量が増加している（食料品製造業）。	
		□	・依然として受注が生産能力の50%程度しかないため、雇用調整助成金を活用して休業や教育訓練を週2日行っている（金属製品製造業）。	
		▲	・大型工事の物件比率が高い状況で新型コロナウイルスの影響などで工事着手が遅れるケースが増加しているため、予定している技術職員が手待ちになっている。手待ちの期間を埋める受注がポイントになっている（建設業）。	
	雇用 関連	□	・例年と比べると求人数が減少しており、景気の悪化が続いている（学校 [短期大学]）。	
		○	・新規求人数は新型コロナウイルス第2波発生時の最悪期を脱した状況である（人材派遣会社）。	
	その他の特徴 コメント		○：天候に恵まれ、大型イベントを開催できたこと、コスモスの生育が良かったことなどから、週末を中心に多くの客が訪れている（テーマパーク）。 □：Go To Travelキャンペーンは宿泊数や販売額の増加をもたらす、地域経済にも少なからず好影響を与えている。ただ、団体については修学旅行を始めとした教育関連が動き出したものの、一般企業を始めとする法人需要が回復しないため引き続き厳しい状況となっている（旅行代理店）。	
	分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染者数が微増していることを考えると、すぐに景気は良くなる見込みはないし、寒い時期に入って感染者数が増加することになれば状況が悪くなる可能性もある（百貨店）。	
		○	・Go Toキャンペーン後の反動が心配であるが、キャンペーンがある間はこのまま増加傾向が続く（一般レストラン）。	
	企業 動向 関連	□	・今月同様、年末までは来客数や成約数は余り変わらない（不動産業）。	
		▲	・受注が回復傾向にあり、2～3か月先の売上も増加する見込みである。自動車産業を中心に回復基調にあると考える（鉄鋼業）。 ・国土強じん化、サービスステーションの災害対応能力等の強化施策が終了するため、景気はやや悪くなる（一般機械器具製造業）。	
	雇用 関連	□	・新型コロナウイルスの影響で自動車部品製造の受注の落ち込みが大きく、休業や賃金カット等で対応しているが、今後の見通しが厳しいことから、やむを得ず人員整理に踏み切る事例もみられる（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント		□：景気が良くなるような要素が見当たらない。近隣の観光施設にはGo Toキャンペーン関連でにぎわっているところもあるが、商店街には余り影響を与えない（商店街）。 □：Go To Travelキャンペーンの効果により来客数の増加が期待できるが、12月中旬以降2月末までは年末年始を除きオフ期となるため、景気は変わらない。Go To Travelキャンペーン終了後の景気の落ち込みが不安視される（都市型ホテル）。		

(D I) 現状・先行き判断D I（中国）の推移（季節調整値）

